

審査員からのコメント

地図×データで命を守る

～宮崎県内の地震・大雨被害のGISによる分析～

本作品は南海トラフ地震の発生を踏まえた地域住民の防災意識の向上および近年の激甚化する土砂災害を踏まえた適切な避難行動のあり方を地理空間データによる量的調査と現地調査による質的調査から探索的に検討した研究である。前者では津波浸水想定区域内であるにもかかわらず人口増を示している地域が存在することへの疑問を起点として、多くの住民が自らが住まう地域の災害リスクを正確に把握していないこと、後者では土砂災害ハザードマップの正確性への疑問を起点として、ハザードマップのみを避難行動の指針として用いることの危険性をそれぞれ指摘した。本作品はその内容はもちろんであるが、多数の関係者との協働性、災害リスクを踏まえた生活の持続可能性、そして、自らが住まう地域の課題に真摯に向き合う当事者性という点で、防災コミュニケーションとしても秀逸であることから総合的に受賞に相応しい作品であると評価した。

